

熊本市の小学校校歌にみる地域景観構造に関する研究

Study on architecture of regional landscape through the elementary school songs in Kumamoto City

熊本大学工学部社会環境工学科

原嶋 香菜子

1. はじめに

校歌は、その地域の風景事物を詠みこんでいるものが多いため、校歌に謳われる風土は人々に共有される景観像（＝地域らしさ）を反映していると考えられる¹⁾。

本研究では、熊本市の小学校校歌を通して熊本市の地域景観構造について考察することを目的とする。

2. 熊本市内小学校区の概要

熊本市内の小学校の設立年代を熊本市史と照らし合わせると、1889年の熊本市制施行と1945年の太平洋戦争終戦が転換期となっている。よって、Ⅰ期（1872～1888年）、Ⅱ期（1889～1944年）、Ⅲ期（1945～1998年）に時代区分することができる。

この変遷に沿った各地域の特徴として、中央部は、もともと人口が集中している地区であり、市街地となっている。それがⅢ期に移るにつれ、人口密度の変化と共に東部へと広がっていることが分かった。西部は昔から農漁業を中心としている地域である。北部では森林地帯が見られ、南部では田園地帯が見られる。この3地域については人口密度が低くなっている²⁾。

3. 熊本市内の小学校校歌データベースの基礎集計

校歌収集により得られた全90校の小学校校歌についてデータベースを構築し歌詞全体の傾向を掴んだ。

山が最も多く謳われており、その中で阿蘇山が約半数を占めていた。水辺については、河川とその他の水辺の割合がほぼ同程度で謳われていた。

4. 熊本市の地域景観構造の分析

3章で構築したデータベースを基に、ここではまず校歌に謳われる要素の分布を時代区分ごとに分析した。

4.1 謳われる要素の空間分析

Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期を通して阿蘇山が謳われていることが分かり、水辺については、白川・江津湖が謳われていた。このことから、熊本市は阿蘇山が地域景観として大きな存在を示しており、「地下水都市」としての熊本市が校歌にも表れていることが分かる。

4.2 地域景観の変遷に関する分析

田野・農漁業・樹花・森林・その他の要素分布の変遷について図1に示す。Ⅱ期では農漁業要素が多く見られる。これはⅡ期に設立された小学校区の基幹産業が、農漁業となっている校区が多いことが考えられる。Ⅰ・Ⅲ期において、樹花が最も多く謳われている。

5. おわりに

校歌を年代で分析することで、まちの変遷を読み解くことができた。熊本市の地域景観構造を把握する一指標として、校歌が有用であることが示せた。

[参考文献]

1) 神谷文子, 浦山益郎: 景観記述媒体としての学校校歌の文の構造の研究～主体「われら」を通しての分析～, 日本建築学会大会学術講演梗概集, p.703, 2007

2) 熊本市統計データ, <http://www.city.kumamoto.kumamoto.jp/>

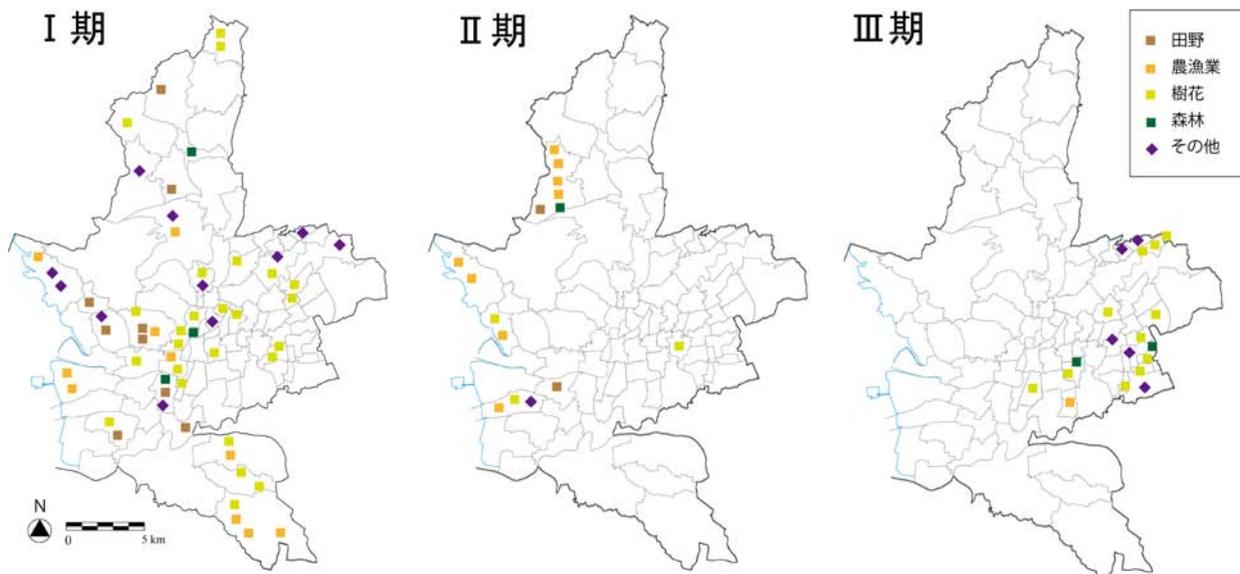


図1 校歌に謳われる要素（田野・農漁業・樹花・森林・その他）分布の変遷